

NEWS

ともにめざそう
環境首都なごや



「環境デーなごや2016」報告



河村市長らによるオープニングセレモニー

「環境デーなごや」は今年で17回目を迎えます。テーマを「一人ひとりのECOが未来を変える」としており、一人ひとりが自らECO（エコ）を意識しながら環境配慮行動に取り組んでいただけるよう、分野や主体、世代を超えて交流することで、持続可能な未来について学び合える場として、9月17日（土）午前10時～午後4時、久屋大通公園一帯（名古屋市中区栄）で開催されました。

当協会では、昨年度よりAELネット（愛知県環境学習施設等連絡協議会）に加盟するとともに、児童の健全な育成と地球環境の保護、自然環境の保護活動の一つとして、子供たちに自然環境の中で循環型社会形成の取組みを体感し、環境保全や資源リ

サイクル、自然環境の保護の大切さについて学んでいただく環境学習イベントを開催しております。今年度におけるAELネット環境学習イベントは、①夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアー（今年度は終了）、②環境デーなごや2016協賛ブース（ワークショップ等）、③Let'sエコアクション in AICHI協賛ブース（ワークショップ等）です。

今回は、環境デーなごや2016協賛ブースの環境学習イベントとなり、毎年恒例となっておりますが、毎回新たな発見と出会いに満ちあふれ、好評を博す催事のひとつです。

イベント当日はうす曇りの天候でしたが、朝早くから人が混み合い、メインステージではオープニングセレモニーが行われ、名古屋市長 河村たかし氏、名古屋市議会議長 加藤一登氏が登壇され、開会の挨拶がありました。主催者を代表して河村市長は「名古屋が先日もっとも行きたくない街に選ばれました（笑）これではいかんと思いますが、名古屋以外から来た人は、住みよいということを言われます、藤前干潟のこともあります、行きたい街名古屋にするためにも、これからは面白い街づくりが課題です。Thank you for coming!」と会場を沸かせました。



大勢の方々と賑わう愛産協ブース



多数の来訪者でワークショップの体験コーナーは大人気でした。

加藤市議会議長は「私の地元は港区で、初当選した平成11年は、藤前干潟のごみ埋め立てを断念して、ごみ非常事態宣言が出されました。ごみの減量の施策が次々出てくる中で、市民が立ち上がり結束しごみの減量が始まりました。今後名古屋市は環境問題、防災などに積極的に取組まなければならないため、市民の皆様のご期待に沿えるよう、議会も頑張っていきたいと思えます。」と述べました。その後メインステージではミュージカルやお笑いなどが催され、観客席は人が絶えませんでした。

協会のブースは開催と同時に多数の来訪者が押し寄せ、ワークショップの体験コーナーは満席となりました。葉・うちわづくりでは、当協会員の(株)コスモス・エコ研究所 浦田恵美子社長が先生となり、見本を片手に持ち作成手順をていねいに指導されていました。参加者は、どの花を選ぼうか、レイアウトはどうしようか、と周りとは相談しながら、広告の切り抜きから素敵な葉ができることに、感動されていました。切り絵コーナーでは今年も、名古屋市昆

虫同好会会員の小林俊光氏にお手伝いいただきました。半分に折った色画用紙が平面から立体に変化する様子は、流行の3Dが紙で再生できることに感動される様子がうかがわれました。工作コーナーでは、鬼頭洋子さんにお手伝いいただきました。どんぐり、松ぼっくり、小枝を利用して森の一風景を切り取ったようなオブジェを作ります。道に落ちている木の実が、少しの工夫でかわいい小物に変わっていく様子は、老若男女を問わずファンが多いようです。ブースには協会の事業内容や取組、各支部の資源循環リサイクル事業、藤前干潟の清掃活動などをパネル掲示し、多くの方の関心を引きました。テント前には循環あいちと新聞切り抜き冊子を置き、来訪者に配布しましたが、環境に興味を持つ方、環境学の専攻学生さんなどから質問がありました。協会職員は総出で、クラフトのお手伝い、ティッシュ、絆創膏の配布を分担し、イベントを盛り上げ多くの来訪者から感謝の声をいただくとともに、循環型社会構築について関心の高さを知ることができました。



永井会長も愛産協のブースを訪れました。

